

松嶋夜話 卷之下 55

〔原文〕念六日

〔訓読〕念の六日

〔原文〕院主系師洪嶽座元年間

〔訓読〕**訓読できません。**

※洪嶽…人名？

※嶽座…年号？

〔原文〕齋點一村

〔訓読〕一村に齋點す

〔原文〕鳩同門供養

〔訓読〕同門を鳩めて供養し

〔原文〕請余之拈香矣

〔訓読〕余が香を拈ずるを請ふ

〔原文〕齋已院主延余謁當保鎮守黒崎明神

〔訓読〕齋已りて、院主余を延べて、當保の鎮守、黒崎の明神に謁す

〔原文〕殿中有彫古板觀音本尊

〔訓読〕殿中に古を彫る板に觀音の本尊有り

〔原文〕板之後面有堂供養銘辭

〔訓読〕板の後面に堂の供養の銘辭有り

〔原文〕誦經品目明應五年之日記也

〔訓読〕誦經の品目、明應五年の日記なり

〔原文〕大擅那廣田城主源綱繼也

〔訓読〕大擅那は廣田城の主、源綱繼なり

〔原文〕余捧幣賽神下社

〔訓読〕余は幣を捧じて神に賽して社に下る

〔原文〕又往山鼻有明神舊社

〔訓読〕又山鼻に往けば、明神の舊社有り

※山鼻…地名？

〔原文〕巖岩壁立千萬仞

〔訓読〕巖岩壁立つこと千萬仞

〔原文〕臨峯有大磐石容膝

〔訓読〕峯に臨みて大磐石の膝を容るる有り

〔原文〕余倨此石上

〔訓読〕余、此の石の上に倨す

〔原文〕顧於四方泊乎

〔訓読〕四方を顧みるに泊んとす

〔原文〕如遊五老峯

〔訓読〕五老峯に遊ぶが如し

〔原文〕西有貝鳴島辯天堂

〔訓読〕西に貝鳴島の辯天堂有り

〔原文〕南目送唐桑明神洲崎

〔訓読〕南に唐桑の明神の洲崎を目送す

〔原文〕其海面忽爾見大鯨二頭浮游

〔訓読〕其の海面に忽爾として大鯨二頭が浮游するのを見て

〔原文〕噴氣息於長天

〔訓読〕氣息を長天に噴きて

〔原文〕敵鹵水者數丈

〔訓読〕鹵水を敵（ふきい）たす者數丈

〔原文〕飄烟已則空海忽現出一島

〔訓読〕飄烟已みて、則ち空海忽ち一島現出す

〔原文〕稔見非島

〔訓読〕稔(つらつら)みれば島に非ず

〔原文〕鯨魚背髯也

〔訓読〕鯨魚の背髯なり

〔原文〕鯨游儘多

〔訓読〕鯨遊ぶこと儘く多し

〔原文〕是唐桑明神使介也

〔訓読〕是れ唐桑の明神の使介なり

〔原文〕漁者中鯨則有神之責云

〔訓読〕漁なる者も鯨に中たるときは、則ち神の責め有りと云う

〔原文〕予初而目於鯨魚

〔訓読〕予始めて鯨魚を目る

〔原文〕又不奇觀也

〔訓読〕又奇觀ならずなり

〔原文〕夕陽春

〔訓読〕夕陽春き

〔原文〕海風起

〔訓読〕海風起こる

〔原文〕引扈從歸于慈恩

〔訓読〕扈從を引きて慈恩に歸す

〔原文〕其夜有漫興送院主曰

〔訓読〕其の夜漫興有りて院主に送りて曰く

〔原文〕遠來得得

〔訓読〕遠く來りて得得として

〔原文〕扣幽扉

〔訓読〕幽扉を扣く

〔原文〕竹老情深風色菲

〔訓読〕竹老、情深く、風色菲し

〔原文〕去覓慈恩看景勝

〔訓読〕去って慈恩を覓（もと）め景勝を看る

〔原文〕怪巖奇石我山希

〔訓読〕怪巖、奇石、我が山に希なり

〔原文〕竹老諸子皆呈和

〔訓読〕竹老諸子、皆な和を呈す